



湾岸・アラビア半島地域ニュース

チュニジア：アラブ諸国内相会合の開催 (2月1日付現地報道)

1月30 - 31日、チュニスで第24回アラブ内相会合が開催された（今回の会合にはアラブ連盟加盟国のうちレバノン、UAE、パレスチナ、バハレーン、ジブチ、コモロは欠席）。

- 1月30日の開会式でベン・アリ大統領は、「テロや凶悪犯罪に対抗する為、アラブ諸国の連帯と情報や経験の共有に向けた協力と協調が必要であり、本内相会合はその為の大きな意義を持つものである」と強調、又、「本会合でアラブ各国がそれぞれ多方面からテロ対策、治安維持などに意見を出し合い、共通の戦略を打ち立てて、具体的かつ有効な政策を実行するメカニズムの設定を期待すると共に、我々の若い世代の将来の為に危険のない社会、安心して生活の出来る市民社会を守っていくことが求められている旨を述べ、チュニジアは国連主催のテロ対策国際会議の開催を訴える」と述べた。
- 今回の会合の主要な議題はテロ対策で、アラブの発展の為には治安の安定の確保が何よりも必要であり、国境を越えたテロ活動が脅威となっている現状を踏まえ、その為に各国政府が協力して非合法組織の拡大を抑えると共に、組織員の移動の阻止を中心とした議論が行なわれた。
- 1月31日の会議終了後、アラブ諸国の治安・安全の為にプロセス強化・発展を目的とする共同声明が発表された。同共同声明では、テロ対策のアラブ戦略第5次計画の採択、アラブ諸国間のテロ対策、麻薬対策、国境警備、空港・港湾の出入国及び安全対策（人と物の両面）、不法入国対策、旅券問題、国籍問題、観光客の安全対策などの重要性が強調されている。更に、それらの課題にアラブ諸国が協力して対処する為の警察当局責任者の会合を内相会合事務局が開催することも合意された。
又、本会合で、アリ・クーマン（サウジアラビア）内相会合事務局長の再任も決議された。